

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成25年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
25-5	繊維シートや鋼板によって補強されたRC部材の再劣化に対する健全度評価法の開発	東北大学 教授 鈴木 基行	A

<研究の概要> ※成果報告レポートより引用

炭素繊維シートや鋼板補強によって表面が覆われ、目視による変状確認が困難となった道路橋の再劣化に対する点検と健全性評価を実現するため、加振器を用いた簡便かつ高精度の振動試験法を開発して、疲労、塩害、凍害に対する提案手法の適用性検討と、道路橋の現場試験への応用までを実施する研究開発。

<事後評価結果>

塩害、疲労、凍害によるRC部材の再劣化において、多様な条件下で目視できない内部変状を把握する手法の適用性・適用範囲を明らかにし、実験室における理論的な検討から実構造物への応用について検討が行われていることから、研究目的は達成されており、また成果の活用が十分期待できることから、当初の目的に適った十分な成果が得られたものと評価する。

<参考意見>

1. 今後の研究においては、補強により見えない部分の健全性評価を目的としていることを前提に、例えば現時点では難しい劣化要因の識別についても少しでも識別可能になること等を目標に、データの蓄積を行い、実務への適用性の向上に向けて進められることを期待する。
2. 塩害、疲労、当該の各分野において実務的活用性は異なるが、今後の実用化に向けた研究による課題解決を期待する。
3. 今回実施した条件以外の条件下における損傷や構造形式、他の構造物等への適用範囲の拡大を期待する。
4. 実用化に向けて実務におけるニーズや実務者の使いやすさにも力点を置いた研究への発展を期待する。
5. 今後の実用化に向けて、発展的研究や現場試験データ等の収集においては、国土交通省や地方自治体等の道路構造物の管理者の協力が必要である。

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第32回新道路技術会議において審議したものである。